

ぬ

ぬまくないせん 沼宮内線 東北本線盛岡駅を起点として、同沼宮内駅および岩手県岩手郡葛巻町を経て同県下閉伊郡岩泉町に至る路線および、それに付帯する路線からなる国鉄自動車路線であって、所管する沼宮内自動車営業所および岩泉自動車営業所は、それぞれ岩手郡岩手町および下閉伊郡岩泉町にある。

1 区間・キロ程および沿革

沼宮内本線		
沼宮内～茶屋場	36.8km	昭14・11・25 開業
茶屋場～岩手落合	43.8	昭22・12・25
盛岡～沼宮内	34.8	昭27・2・9
下屋敷線		
陸中板橋～下屋敷	7.4	昭33・2・21
下屋敷～陸中大渡	7.5	昭36・5・1
権現線		
名目入～権現	10.1	昭28・11・28
岩手登山線		
滝沢～柳沢	8.0	昭28・11・28
本路線は昭和32・10・15 沼宮内西線を改称した。		



2 営業範囲

沼宮内本線は旅客・手小荷物および貨物の、その他の区間では旅客および手小荷物の取扱いをしている。

3 使命

この地方の産業文化の発展助成を使命としている。

4 特長

岩手県内陸部を横断する陸上交通の大動脈で、岩手県最初の国鉄自動車路線として開設された。沿線は酪農が盛んである。また岩手登山線は登山期間の7～8月までの期間限定路線となっている。

(佐野 実)

ね

ねぎしせん 根岸線 東海道本線横浜駅から分岐して横浜市の中心部を通り磯子に至る9.5kmの線と、桜木町から分岐して高島駅に至る1.9kmの貨物支線を含み、総営業キロ11.4kmの線。線路所属は東海道、線路等級は甲線である。

この線は鉄道敷設法別表52ノ2〔神奈川県桜木町ヨリ北鎌倉ニ至ル鉄道〕の一部として昭和34年日本国有鉄道において建設に着手したが、昭和39・3・日本鉄道建設公団の設立に伴い工事中の桜木町・磯子間は同公団に移管、昭和39・5工事が完成したので、日本鉄道建設公団法の規定により国鉄が日本鉄道建設公団から借り受け、昭和39・5・19公団線第1号として旅客運輸営業を開始した。したがって桜木町・磯子間の線路施設の財産は、日本鉄道建設公団の所属となっている。なお、桜木町・高島間の貨物線は根岸線の貨物短絡線として国鉄が建設したので、桜木町・磯子間の貨物営業開始とあわせて昭和39・6・1開業し、その財産は国鉄の所属となっている。

この線のうち横浜・桜木町間は明治5・5・5新橋(現在の汐留)・横浜(現在の桜木町)間線として開業、その後東海道本線の一部として電車による旅客営業を行っていたが、桜木町・磯子間の開通に伴い、この区間も含めて横浜・磯子間を根岸線としたものである。したがって線の営業範囲は横浜・桜木町間は旅客運輸営業のみ行ない、桜木町・磯子間は一般運輸営業とし、輸送形態としては、旅客は京浜東北線(通称)の電車を磯子まで乗り入れて運営し、根岸・磯子の横浜港臨港地帯発生貨物は、桜木町駅から貨物短絡線経由で輸送している。

磯子・大船間は現在日本鉄道建設公団の手により建設中で、全通の暁には湘南方面と京浜地帯の都市交通線として通勤その他の利便が増進される。

(高橋昌保)

ねづかいちろう 根津嘉一郎 万延1・6・15山梨県に生まる。幼名は栄次郎。後に父の名を襲名して嘉一郎となる。

明治10年郡書記を振出しに村会・郡会・県会の各議員に当選、地方自治のため尽力した。

これと前後して実業界にも進出し、明治32年房総鉄道株式会社設立をはじめ、同年鉄道国有実行調査委員となり、次いで不況にあえぐ東武鉄道株式会社の経営に功績をあげ、明治38年懇請されて専務取締役(のち取締役社長)となって今日の基礎を作りあげた。



大正4年私設鉄道同志会ができると副会長(のち会長)に推され、同11年鉄道会議議員、昭和5年鉄道運賃審議会委員となるなど、鉄道界に重きをなしていった。そして関東周辺をはじめ、関西・中部・四国・朝鮮等各方面2、3の私設鉄道に関与、いずれも盛運を至し、特に、東京市内交通機関の乱立には心を痛め、統一合同の推進に奔走した。

一方、明治37年衆議院議員に当選し、中央政界に進出(会期4回)、同42年渡米実業団の一員として、また南米親善の使節員として尽くし、大正15年貴族院議員に勅選された。

その収集にかかる絵画・墨跡・写経・陶器・支那銅器等の古美術品は世に高く、これらは、あげて根津美術館に所蔵されている。

昭和14年南米の親善旅行に病を得て帰り、いくばくもなく尿毒症を併発し、翌15・1卒去した。享年81。